

令和7年度

試験名: 推薦入試

【 医学群 看護学類】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
小論文(1)	出題意図:書籍から引用された文章を読み、その内容を的確に捉え、これまでの自らの知識や経験と照らし合わせて、出題者の意図を考え、自らの意見を含めて文章化することができるか、すなわち、読解力、論理的な思考力、表現力を見る。 問1 地球上の生態系において生物の多様性が形成された背景を述べなさい。また、それが環境および人間社会にどのような影響を及ぼすか、根拠を踏まえて論じなさい。 解答例:生態系とは生物やそれを取り巻く生物やそれを取り巻く物理化学的環境とそれらの相互作用を1つの総合的なシステムである。生物はそれぞれの生息環境(温度や湿度などの物理化学的環境条件)に対して適応進化しており、ある範囲の環境条件以外での生存が困難である。また、生物は、生存可能な環境条件下であっても、他種との相互作用(捕食、寄生、競争など)といった生物的要因により分布が制限されることもある。その結果、地球上のそれぞれの環境において異なる生物が存在し、特徴的な生態系を形成する。 生態系内部においても環境も均一ではない。地形や地質の不均一性、攪乱(嵐、洪水、火災など)による環境変化、生息する生物の物質生産・分解による環境変化などにより、それぞれの生態系内において複雑な環境がつくられていく。この結果、よく似た気候の地域においても、環境の多様性が生み出される。 人間社会は生態系と切り離すことができないため、生態系の多様性が人間社会の多様性につながると考えられる。地球上の生態系の多様性が人類そのものの生物としての多様性、例えば人種の違いをもたらし、太陽から受ける紫外線の強い地域に暮らす人類は紫外線の悪影響から人体を守るために肌の色が濃くなるという生物学的な変化につながる。人間社会において衣服を身につけることにもつながったであろう。その衣服についても様々な多様性が発生し、人間社会における文化や宗教などに影響を及ぼしていることは明らかである。 問2 あなたの身近で多様性が軽視されているものの例を挙げ、それを改善するにはどうしたらよいか、あなたの考えを述べなさい。 解答例:私の身近で多様性が軽視されているものとして、校則が挙げられる。 例えば、学校では校則によって制服が決められている場合がある。制服には通常夏服と冬服の2つのパターンしかない。近年、地球温暖化によると考えられているが、日本において高温多湿の「夏」の期間が延びているといわれる。特に4,5月においても

	夏日といわれる高温になる時期があるにもかかわらず冬服を身につけることが学校におけるルールとなっていることで、暑さに耐えられなくなり体調を崩す者が発生している。一方で、冬の極寒の時期に女生徒にスカート着用を強要する場合がある。暑さ、寒さに対する順応力は人によって異なる、すなわち生物学的な多様性の一つと言える。ゆえに、本来はそれにあわせて夏服の着用を許可するなど服装に関する学校のルールについてもっと多様性を認めるべきと考える。 また、私の仲の良かった友人は朝登校時間に起きることができず、遅刻が続き、それをきっかけとなり不登校になり、高校を退学してしまった。聞くとところによると、生体リズムが通常とは異なり、調整が難しい体質であると診断されているそうである。朝早く一斉登校しなければならないというルールがなければ、もっと柔軟性のあるルールであれば友人と一緒に学生生活を続けることができたのかもしれないと考えることがある。海外の研究によると朝 10 時を始業時間にした方が学生の成績が上がったという結果が得られたというニュースを耳にした。校則にある学校の始業時間についても人の多様性に合わせた柔軟性が考慮されることが望ましいと考える。
小論文 (2)	問 1 子どもの歯に関するこれまでの経緯と対策について本文に即して説明し、その上であなたの経験を踏まえて考えを述べなさい。 出題意図 子どもの歯について、これまでの経緯と今後の対策について本文中から正しく捉え、要約する能力をみる(文章読解能力、文章表現力)。また、本文の内容を踏まえて自らの考えを分かりやすく説明し記述する文章表現力をみる。 解答例 本文では、子どもたちに焦点を当て、オーストラリアにおける子どもたちの歯について 2000 年前後の経緯と、今後の対策について論じている。 本文中では、2000 年以前の子どもたちの歯について、オーストラリアにおける歯を強くするための政策として、1960 年代から 1970 年代にかけて、歯を強くすることが証明されている物質であるフッ化物を、全国の都市や町の飲料水に添加するようになったことをあげている。また、フッ素が歯みがき粉にも添加されるようになった。これにより、1970 年以降にオーストラリアで生まれた子供たちは、親の世代に比べて虫歯が約半分に減少した。つまり、このことは虫歯になる(歯に穴があく)子供が減ったことを意味しており、詰め物が必要になる可能性が低くなり、歯を抜く必要も減少した。すなわち、2000 年頃までは、フッ素入りの水道水とフッ素入り歯磨き粉の普及により、歯の健康は改善していたことを述べている。 しかし、2000 年以降になると子どもたちの歯の状況は変わり、虫歯が増加したことを示唆している。また、虫歯が増加した原因として、砂糖の摂りすぎが大きな問題であることを指摘している。虫歯の主な原因である砂糖入りの食べ物や飲み物は、数十年前よりもはるかに手に入りやすくなった。両親や祖父母が学校に通っていた頃には珍しい「ご褒美」だった甘いお菓子や炭酸飲料は、現在では「毎日の」食べ物になっている。このことから、虫歯を予防するための対策が必要であり、予防のためには、砂糖の摂取への対策が必要である。 虫歯を予防するための対策として、まず1つ目に、1日2回の歯磨きがあげられる。歯磨きにより、歯垢の蓄積を防ぎ、口の中の糖分を除去することが可能である。2つめに、健康的な食べ物を摂取することが重要である。つまり、できる限り加工食品ではなく新鮮な食品を選ぶ、砂糖の多い食べ物やお菓子を控えることが重要である。例えば、ジュースを飲むよりも果物を一切れ食べる、お腹が空いたときは、甘いものよりも塩味の食べ物を選ぶようにする。さらに、何を飲むかは、何を食べるかと同じくらい重要であることを示唆している。ソフトドリンク、フレーバーミルク、エナジードリンク、コーディアル、果汁などの甘い飲み物を避け、水を飲むことが重要である。特に、食事やおやつと一緒に水を飲むと歯が強くなることが述べられている。

次に、虫歯を予防するための今後の対策についての私の考えを述べる。まず、2000年以前より実施されている、歯を強くするためのフッ素の日常的な使用については、これまで、小・中学校でもその必要性について学んできたことから、重要な対策であると考え。私自身の虫歯予防の対策についてふりかえてみると、私は、毎日フッ素を含む歯磨き粉を使用して歯みがきをしている。小学生の時には、自治体でフッ素塗布が行われていたため、定期的に歯の表面にフッ素を塗ってもらっていた。そのため、毎日の歯みがきに加え、定期的なフッ素塗布を受けることができれば、虫歯予防につながるのではないかと考える。また、本文中に記述されているように、水道水にフッ素を添加することに加えて、私たちが日常的に摂取する飲食物にもフッ素を添加することができれば、さらに効果があるのではないかと思う。しかし、そのような政策をとっても、2000年以降は虫歯が増加している状況を見ると、フッ素を使用するだけでは虫歯の予防には十分とは言えない。私自身、甘い食べ物は、虫歯になると幼少期から言われてきた。そのため、本文中に記述されている砂糖の摂りすぎが、虫歯の増加の原因であることは理解できる。本文にあるように、現代の私たちの生活の中では、甘いお菓子や炭酸飲料は、毎日好きな時に好きなだけ口にする事ができる。もしかしたら気づかないうちに砂糖を多く含む食品を摂取しているかもしれない。そのため、虫歯予防のためには、子どもたちが、できるだけ早いうちから砂糖の摂りすぎが虫歯の原因であることや、虫歯予防のためには砂糖の摂取を減らす対策が必要であること、どのような食品に砂糖が多く含まれており、どのような食べ物を選ぶと良いかといったような具体的な方法について、学べるような機会が必要であると考え。また、もし虫歯ができてしまった場合には、放置しないで早めに歯科医に行き治療をするように伝えていくことも重要であると考え。

問2 下線部について本文に即して説明し、その上であなたの考えを述べなさい。

出題意図

歯の健康が全身の健康に与える影響について本文全体から正しく捉え、自らの考えを記述する問題である。文章読解能力および本文の内容を踏まえて自らの考えを分かりやすく説明し記述する文章表現力をみる。

解答例

下線部では、歯の健康状態が全身の健康にとって非常に重要であると述べている。本文で、歯の健康が全身の健康に与える影響について、虫歯は、笑ったり、適切に食事をする能力など、口に悪影響を及ぼすことや、歯の健康状態が悪いと、より広範囲の問題を引き起こすことを論じている。特に、成人期には、糖尿病、心臓病、アルツハイマー病、がんにかかるリスクが高まる可能性があることを示唆している。

次に、歯の健康状態が全身の健康に与える影響について私の考えを述べる。まず、本文中に記述されている、虫歯が、笑ったり、適切に食事をする能力など、口に悪影響を及ぼすことについては同意する。虫歯による歯の痛みがあると、痛みにより食べ物を口に入れることやよく噛むことが難しくなる。また、痛みが気になって、食欲が低下することや、食べ物を食べてもおいしく感じられないのではないかと考える。その結果、適切に食事をする事ができなくなる可能性がある。さらに、痛みが続くことによって、落ち着きがなくなり、いらいらするかもしれない。会話をするにも口の中の状態が気になり、笑うことも難しくなってしまうのではないかと思う。このことによって、日常生活を健康的に過ごすことが難しくなってしまうのではないかと考える。

また、著者は、歯の健康状態が悪いと、糖尿病、心臓病、アルツハイマー病、がんにかかるリスクが高まることを示唆している。本文では、虫歯が、適切に食事をする能力などについて口に悪影響を及ぼすことを論じている。健康的な食べ物を食べること

は、健康な身体を維持するうえで重要であるにもかかわらず、歯の健康状態が悪いと、食事が偏ることや、食欲が低下することが考えられ、健康な食生活を維持することができなくなるおそれがある。例えば、虫歯で歯が抜けてしまうと、野菜などの固い食べ物を食べることが難しくなり、ごはんやパンなどの柔らかい食べ物に食事の内容が片寄ってしまうことが予測できる。このことにより、必要な栄養を維持することが難しくなり、全身の健康が損なわれる可能性がある。このため、全身の健康を維持するうえでも、歯の健康を維持することは必要である。本文では、歯と歯の健康について学び、早いうちから良い習慣を身に付けることによって、生涯にわたって歯を守ることができることを述べている。また、乳歯だけでなく大人の歯も大切にすることが重要であることにも言及している。したがって、大人の歯に生え変わる前の早いうちから歯の健康を維持することの重要性について学べるような環境を整備することが必要である。例えば、小学校で歯の健康について学ぶ時間を作る、学校からのお知らせとしてチラシを各家庭に配布して親子で虫歯の予防について考えられるような機会をつくる、といったことが歯の健康を考えるきっかけとなり、ひいては全身の健康を守るための良い習慣を身に付けることにつながるのではないかと思う。私自身、これまで歯の健康状態が全身の健康に与える影響について深く考えたことはない。今後、歯の健康が全身の健康に与える影響について考えつつ、自身の歯の健康を維持できるよう努めたい。